



緑の屋根



伊勢崎市立宮郷第二小学校 学校通信 令和6年10月1日(火)
令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に小学校6年生を対象として全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果が返却されましたので、本校の成果と課題、課題解決のための方策をお知らせします。

1 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、成果と課題を検証しその改善を図る。

2 調査内容

(1) 学力調査結果

- ・国語では、全国、群馬県の平均正答率よりも上回る結果でした。
- ・算数では、全国の平均正答率よりやや下回り、群馬県の平均正答率よりやや上回る結果でした。

国語

(1) 本校における傾向

成果(◇)、課題(◆)

〈言葉の特徴や使い方に関する事項〉

- ◇話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
- ◇文の中における主語と述語との関係を捉えること。
- ◇同音異義語や送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと。

〈話すこと・聞くこと〉

- ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

- ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

〈書くこと〉

- ◆目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

〈読むこと〉

- ◇登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

- ◆人物像を具体的に想像すること。

算数

(1) 本校における傾向

成果(◇)、課題(◆)

〈数と計算〉

- ◇問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。

- ◆除数が小数である除法の計算。

〈図形〉

- ◇角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数を求めて、その理由を記述すること。

- ◇直方体の見取り図をかくこと。

- ◆球の直径の長さと同様立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積を求める式に表すこと。

〈変化と関係〉

- ◇速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること。

- ◆道のりとかかった時間から速さを求めること。

〈データの活用〉

- ◇円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。

- ◇折れ線グラフから必要な数値を読み取り、考察し、記述すること。

- ◆示された情報を基に表から必要な数値を読み取って式に表し、考察すること。

(2) 児童質問紙調査

〈学校生活への満足〉

- ・学校に行くのが楽しい、また、先生はよいところを認めてくれていると思っている児童が全国より高い。

〈基本的生活習慣〉

- ・全国と比べて、朝食を毎日食べている児童の割合が低い、就寝・起床時間について規則正しく生活を送っている児童の割合が高い。

〈キャリア形成〉

- ・将来の夢や目標を持っている児童の割合は全国よりやや高い。

〈ICT機器の学習への利用〉

- ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用できる児童の割合が全国より高い。

〈主体的・対話的で深い学びについて〉

- ・各教科や道徳や学活などで、「互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた児童の割合が全国より高い。

3 課題解決のための方策

(1) 全体を通して

基礎的・基本的な内容の確実な定着と、思考力・表現力の育成を図る。

- ① 児童が自己肯定感や自己有用感を持てるよう、全教育課程において児童の活躍の場をふやすとともに、意識的に「ほめて、認めて、励まし、伸ばす」指導を推進する。
- ② 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」にあたっては、その実現のために、「『なぜ?』から『なるほど?』」を大切にしたい授業実践を行っていく。
- ③ 教科担任制により、教師の専門性を生かした個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
- ④ 「いせさきG I G A A Lスクール構想」を推進し、児童が思考・表現することのできる授業を実践すると共に、情報スキル・モラルの向上を図る。
- ⑤ 市英語モジュールプログラムを活用し、コミュニケーション能力の育成を図ると共に、多文化理解と楽しい英語の授業や環境作りに努め、小中9年間の一貫した系統的な英語科学習を推進する。

(2) 国語

①書くことの指導の充実

- ・授業の中で、資料の分析や分類の仕方を取り入れ、自分の伝えたい内容と分析した資料を関連付けながら、自分の考えを伝えられるような機会を作っていく。

②読み取る力の指導の工夫

- ・物語の人物像を具体的に想像する力を付けるために、叙述をもとにして心情を読み取る学習を継続していく。また、自分が読み取った心情について、根拠を明確にして表現できるように指導する。

③思考・判断・表現力の育成について

- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く力を付けるために、書いた文章を互いに読み合い、色分けするなどして見直す時間を設定する。
- ・自分の考えの書き表し方を工夫することができるように、既習事項を振り返り、書き表し方について例示するとともに、ICTを使って全員の書き方を共有できるようにする。

(3) 算数

①基礎的な力をつける時間の確保

- ・日常生活との関連を重視し、問題を数理的に捉え、その解決過程の中で算数における基礎的な力の定着を図れるように支援をしていく。

②わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・図形の学習では、デジタル教科書や動画、具体物の操作、タブレット等、ICTを効果的に活用する活動を多く取り入れる。

③思考・判断・表現力の育成について

- ・自分の考えを式や図、グラフ等を用いて説明する力を付けるために、ICTを活用し図やグラフ等を操作しながら説明できるようにする。また、ICTを活用することで全員に表現する機会を与え、互いに質問をしたり、意見を言ったりしながら学びを深めていくようにする。